

価値観の多様化する社会と子どもの安全

三上 弘治

日本の政治・経済・国民生活は、観点を限定的にして観ても、戦後から現在まで、急速な進歩を遂げてきました。

極めてみじめな戦後の状況の中から、「アメリカに追いつき追い越せ」の強い意思のもと、日本人特有の「がまん強さ」「ねばり強さ」「ひたむきな勤勉さ」で努力を続け、現在の日本の隆盛を作り上げてきました。このような社会を創り上げてきた諸先輩に、敬意と感謝を申し上げます。

日本の物質的(経済的)な面での成長・発展は見るべきものがあり、諸外国と比べても模範的な成長であると思います。

モーターレーゼーションの普及と道路網の整備、飛行機・新幹線を基盤とする国民生活が、飛躍的に向上してまいりました。

しかし、近年日本の社会現象においても、「自然環境の悪化」「重大交通事故の増加」「凶悪犯罪の増加」等々、アメリカ社会に見てきた諸悪の模範的再現とも言うべき現象が、急速に増えてきているようであります。

自由主義経済活動が作り上げてきた物質的な豊かさの面と、逆に、その犠牲となった社会現象(事象)が混在し、多種多様な価値観が普通となった日本社会が形成されてしまったということも、否めない事実であります。

このような社会状況の中で、日々漫然とした生活をしている自分に気付かされる毎日であります。

『気づき』『考え』『実行する』JRCの行動目標に今さらながら再認識させられております。

この時に、自分なりの気づきをまとめ・考えてみて、子どもたちが「安全」「安心」に通学し学習やスポーツに没頭できる環境・の醸成に微力を捧げてみたいと考え、特に今回は「子どもたちの安全」についての私見を述べてみたい。

生活弱者といわれる子どもたちや老人(高齢者)・障害者等が巻き込まれる重大犯罪が多発するようになってきました。

私たち教員OBは、現職時代から『教育』という崇高な活動【人間に他から意図を持って働きかけ、望ましい姿に育て上げ、価値を実現すること。】のために努力してまいりました。今後もこの趣旨は「不易」なものとして大切にされていかなければならないと考えます。

しかし、いつの時代でも犯罪を犯す人はおります。社会の規範や風習・道徳などに反した悪行・過失など、刑罰を科せられる不法行為に陥る者が後を断たない状況もあります。

その中でも、最近特に、幼い子どもたちが犠牲になる、殺人・拉致事件等が多発しております。

このような悪い状況をなんとか改めなければならないという世論が高まり、政府においてもようやく重い腰を上げざるを得なくなりました。具体的には文部科学省が担当し、各都道府県に対して何らかの行政手段を強力に講じるように指導しました。

山形県としては、『平成18年度、山形県地域ぐるみの学校安全体制整備事業』を立ち上げました。

この事業の趣旨は、～『学校における安全管理の徹底が、喫緊』の課題となっている事から、学校安全ボランティア等の協力により効果的な安全体制を整備し、地域との連携を重視した学校安全に関する各種取り組みを行う』ことでもあります。

主な事業内容として示されている事は次のようなことです。

- ①地域学校安全指導員の配置と巡回指導の実施。
- ②学校安全ボランティア養成講習会の開催。
- ③防犯に関するモデル地域の指定。
- ④地域学校安全指導員連絡協議会の開催
- ⑤安全指導実施地域打合せ会議の開催。

●地域学校安全指導員の任務は・・・

- ①計画に従い担当実施学校等を訪問し、子どもたちを見守るために協力をいただいている地域の方々(学校安全ボランティア)や学校等に対して、危険個所や警備上のポイントをアドバイスしたり、各種情報等を提供したりする。
 - ②必要に応じ、防犯等に係わる関係機関、団体等との連携調整を行う。
 - ③学校安全ボランティア養成講習会の実施運営に協力する。
- などの任務とすることになっております。

小生も今年度この要員として委嘱を受け金山町を担当する事となりました。この度各学校で紹介を受け、パトロール等の活動を実践中であります。

『子どもを見守る運動』を展開しようとするとき、次のようなことが課題となるのではないだろうと考え、具体的な対策を講じながら、職責を全うしたいと考えております。

次に、小生が金山町校長会で紹介された時に、各校長先生方にお示した『子どもを見守る運動』実施上の課題を挙げてみます。

●金山町、地域学校安全の方向性

学校の危機管理は、管理職の総合力で日々実施するもの！。

(教育課程・児童生徒・校舎校地・教職員等の管理)

『子どもを見守る運動』の課題

- ①特に下校時における「見守る死角」をなくする。
- ②子ども一人ひとりの性格(個性)にあった指導をする。
- ③「地区ごと、子どもお迎え制度」の構築。
- ④子どもが無事家庭に着いたかの確認をする地区ごと電話。

⑤通学距離が遠く、自宅までの間に一人になる子の対策。

⑥各学区の『子ども見守り隊』ボランティア要員を確保する

⑦素早い警察関係の情報を迅速に交換し合う。

などが実施上の課題であると思われる。

直ちにこれらの課題を各学校と協議して行きたい。

教育活動の原点は、『人間的価値を追求する活動』で『総合的なもの』でなければならないのではなかろうか？。

山形県の五教振も『いのち』そして『まなび』と『かかわり』をテーマとしております。(『いのち』『健康』『安全』優先)

●価値観が多様化しても、日本(地域)の将来を背負って立つであろうかけがえのない子どもたちの健やかな成長を願いながら、今日もボランティア活動に出かけております。

(謝々)